

我が妻のアンテナ

後方からの自転車の疾走や、気を失ったドライバーの車が突っ込んでくるかも知れぬから要注意だよ！、玄関に訪れる宅配など外来者に対してても不用意にドアを開けぬこと…私は妻に対していちいち注意を促したりするお節介が日常となっていて、嫌われている。

ある日、我々が住まうマンションのエレベータに妻と一緒に乗り込んで一階に下りたつもりが、ドアが開いて数人が「あーどうも」などと言いながら乗り込んだ。行き先階のボタンのタッチが遅れて四階に上ってしまったのだった。

乗り込んできた一行は、このマンションの住人でない外来者と思われる方がほとんどで、男女の内訳などは把握できずにいた。ただ、その内の一人が一階で開いたドアを手で抑えて、降りる我らを配慮した丁寧な態度と言葉の様子から、介護施設の人たちかな？などと推察。周りをジロジロ見ては失礼と下を向いたきりの私が把握できた限りでは、そう思っていた。

ところが、その一行と駐車場で別れてからの妻の話をじっくり。妻は、こう言うのである。

あの人たちは、この間、駐車場で見かけた障害者と思しき若者で今日はメガネを掛けていて、周りの人たちはご両親を含む彼の家族だと思う、というのだ。

えー？そんなところまで見抜いていたのか？

（私は下を向いたきりであったが、同じエレベータの中で、妻はどの辺りでどんな眼つきをして佇んでいたのだろうか？）

さらに妻は、その一行が一階の玄関内にある集合ポストを確認している手元まで見ていて、後で何号室か、ちよつと見ておこうとまでいうのである。

えー！そんなチェックまでしていたのか！熟練の刑事だな！

日頃いちいち注意を促しているにもかかわらず、その時の無防備丸出しで弛緩したような私と対照的に、妻は実に鋭く状況を察知するアンテナを装備していたのであった。

